

アジア研究教育ユニット 令和2年度教育研究報告書

事業課題名	Onsite Research Training 授業補助 (フィールドトリップバス代)
代表者名	経済学研究科 久野秀二
事業概要 (600字程度)	<p>経済学研究科の国際プログラム「東アジア持続的経済発展研究コース」では、発足当初より「Field Research in Japan」を修士1年目の前後期に必修科目として提供し、京都市内や近畿圏に立地する先端産業や伝統産業、学研都市や農村集落へのフィールドトリップを通じて日本の産業経済や地域社会の持続可能な発展について実地で学ぶ機会としてきた。2021年度に新たに開設される国際共同学位プログラムにも同時提供することになったため、内容の拡充を合わせて名称を「On-site Research Training」に改めた。これまでは留学生支援室関連予算で補ってきたが、各学期3回、年6回のフィールドトリップのうち、例年1~2回だった大型バスの利用機会が3~4回へと増えていることから、一部をアジア研究教育ユニットの事業として位置づけ、予算を充当することにした。</p>
成果の概要 (800字程度)	<p>前期はすべてのフィールドトリップを中止せざるを得なかったが、その分、後期に修士2年と修士1年の二つの学年を、①島津製作所創業記念資料館／琵琶湖疎水記念館 (Historical Approach to Kyoto: Policy, Technology and Entrepreneurship in Historical Contexts)、②京都府和束町・茶源郷 (Sustainable Rural Development via Tea Economy & Culture)、③京友禅／クラフトビール (Traditional and Craft Industries in Kyoto) の三つのフィールドトリップに参加させることができた。このうち②は二回に分け、それぞれ大型バスをチャーター利用した。各トリップは「事前学習、フィールドトリップ、事後学習、レポート課題」で構成され、事後学習では活発な議論が交わされるとともに、提出されたレポートでは学習の成果が示されていた。また、国際プログラムの修士課程学生にとって、同科目はホームルーミ的な役割も果たしており、新型コロナ禍で相互の交流が妨げられる中で、感染予防対策を徹底しながら実施したフィールドトリップは貴重な交流機会となった。また、一部のフィールドトリップには経済学部・研究科の日本人学生も合流し、日本人学生と留学生との共学機会ともなった。</p>